

## 工学院大学八王子キャンパス総合教育棟 設計プロポーザル 審査講評

審査は二段階で行い、第1次選考は2009年12月14日に工学院大学新宿校舎において非公開で行った。52者から寄せられた技術提案書について、投票を交え3段階で審査しヒアリング対象者7者を選んだ。選考は匿名で行った。引き続き同26日に第2次選考を行った。工学院大学新宿校舎中層棟6階B-0663教室において、提案者7者による自案の説明のあと審査員による質疑応答を行った。ここまでを公開で審議を行い、その後は非公開で行った。厳正で多面的な審議の結果、最優秀案として登録番号39番の案、次点として登録番号10番の案を選び、工学院大学理事会に報告した。

以下に審査委員会での議論を元に、最優秀、優秀案、そして続く案については登録番号順に講評する。

登録番号39番：要求諸室を機能と規模によって整理し、4つのL字型の棟にまとめ、それらを相互に近接して置くことで、間にパッサージュと名付けられた十字路を創り周辺建物とのあいだには4つの広場を生み出すという極めて高度な建築的知性によって、八王子キャンパスに新たな中心的な場所を組み立てている。周辺の建物との関係を注意深く読み取って配置されたアーバンデザインは、ここがキャンパス空間の要となることを期待させ、内部のパッサージュには全ての講義室の様子と気配が満ち、キャンパス空間における新たな可能性を示す提案として高く評価された。また工事費等に関しても無駄無く組み立てられている。一方、問題点として指摘されたことは、北西に置かれた大講義室棟の廊下の幅や階段の配置などが講義時間終了時に一斉に吐き出される学生を捌くには不十分であり、再考が必要であること、建物の外観がそっけなく、妻側の立面やキャンパスコモン側の立面など、八王子キャンパスの中心となり125周年を記念する事業の建物に相応しい表情が必要だということなどであった。ただ、これらの欠点は、提案者の作品歴が示す高い能力をもってすれば、提案の良さを損なうことなく十分解決可能であろうという判断もあって最優秀案とした。

登録番号10番：題名にもなっているように、矩型のドーナツ状に諸室を敷地一杯に配し、中央にスタジアムのような広場を作ろうという機能配列と、それに呼応したヤジロベのような構造方式で浮遊性と地上面での開放性を実現しようという野心的で若々しい提案であることが高い評価を得た。囲まれた広場には学生や教員の視線が集中し、大学キャンパスの多様な人々を巻き込む力と創

発的な活動の可能性を秘めている。実現してみたい案として強く推す委員もいた一方、広場の商業空間的な佇まいがキャンパス空間として適切かと疑問視する意見や、リングと周辺の建物のスケール感の不調和を指摘する意見も強く、議論の末、最終的に優秀案になった。

登録番号7番：施設全体を地形的に扱い、壮大な階段広場にしようという大胆な提案であり、高い象徴性も合わせもつことが高く評価された。しかし、外部階段の裏側の処理、広場の方位、大きな教室を下に小さな教室を上にとという計画学的合理性を支える構造方式、内部空間の貧相さなど疑問点も多く、また解決の方向性も示されていないと判断された。

登録番号26番：芝生の斜面に乳白のガラスのキューブが戴かれた構成は、象徴性が高く美しい案として多くの委員に感銘を与えた。しかし一方で、この美しさの皺寄せが高層部の動線処理などに表われていること、芝生のメンテナンスが難しいこと、そして提案の魅力を失うことなくこれらの問題点を解決するのが困難であろうという指摘がなされた。また学生達が集う立体ラウンジと芝生斜面が関係づけられていないことも惜しまれた。

登録番号31番：本案はキャンパスのアーバンデザインという点では全く申し分のない提案であり、きめ細かてかつ論理的に一貫したデザイン的な配慮が行き届き、多くの委員から高い評価を得た。しかしその一方で、提案された広場（テラス）は端正であるが、学生が生き生きと使う姿が想像しにくいという疑念も拭えず、また安定した造形が一方では既視感にも繋がり、未来を作る大学の空間としては懐疑的だという意見も強かった。

登録番号35：ダイナミックにうねる研究室と教室群が重ねられた上で空中に持ち上げられ、その下を学生の広場であるキャンパスコモンにしようという提案である。曲線による外観のインパクトや周辺の建物と協調しながら出来上がる外部空間などが評価された。しかし、3階に置かれた大半の教室へのアクセス動線の処理や、キャンパスコモンの環境（暗いこと、一年の半分は寒そうなこと）など難点も多々指摘された。

登録番号45番：離散的に配置された教室群が、雑木林のような樹林のなかにある親自然的で、環境の時代に相応しい提案として評価された。しかし、詳細に検討すると、巨大なガラスや薄すぎる屋根スラブがもたらす屋内環境の質の低さ、屋外的な扱いがなされた廊下の土の床など機能的な疑問や傾いた屋根の造形など、難点も多々指摘された。